

令和3年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価	1	3	0
各館独自	数値目標による評価	6	1	0

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	87	3	0
各館独自	チェックリストによる評価	16	0	0

自己評価総括

評 価	<p>ア 令和3年度は感染防止の為に臨時休館は無かったものの、来館者の外出自粛や4～5月のイベント中止、混雑時の入館者数制限(70名)など新型コロナウイルス感染の影響が見られており、アウトリーチを含む利用者数は3月末現在7,774人(2年度3月末現在47,459人)、来館者数は3月末現在76,597人(2年度3月末現在46,713人)であり、2年度を大幅に上回ったものの目標値110,400人の達成には至らなかった。</p> <p>イ こうした中、常設展・企画展・特別展及び自然観察会・講座等の満足度はいずれも95%以上となっており目標値を達成することができた。魅力ある分かりやすい展示を始め、丁寧な来館者対応、休止中の体験型展示コーナーへの大型はく製の展示や秩父地域の自然遺産PRショートムービーを映写する「森のシアター」の設置、立体的な昆虫標本や新年に合わせた「干支のトラの名がつく昆虫」標本の展示、100周年特別展の記念企画とした博物館キャラクターズクリアファイルのプレゼントなど来館者に楽しんで観覧していただく取組みを継続してきた。</p> <p>ウ 令和3年度は、当館の前身「秩父礦物植物標本陳列所」の開設から100周年であることや、ジオパーク秩父の再認定審査、国指定天然記念物「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類群」保存活用計画の協議会にあたる作業部会の活動初年度などにあたり、地域と連携した事業活動が充実し、日本ジオパーク委員会の再認定において「鉄道会社などとの連携により地域内外で視認性を高めている。」などの評価を受けており、地域の一体感を更に高められたことは前進である。</p> <p>エ 博物館の重要な使命の一つである資料管理は、令和2年度から年間一万点を目安に計画的に点検を行うもので、3月末現在で14,124件の資料点検を実施した。計画的な資料点検が定着できたことの意義は大きい。</p> <p>オ 学校団体の利用について、利用件数は3月末時点で106校(2年度末時点33校)であり前年度よりは大幅に増加しているものの目標値131校の達成には至らなかった。こうした中、新学習指導要領に博物館との連携が明記されたことを受け、試行的に地域の教員を対象とした研修会を行い、学習指導案やプリントの提示を含む学校の教育課程を踏まえた具体的な活用方法を示した。参加教員は少人数であったが、これまでと異なる新たな取組みであり来年度以降の研修会や博学連携事業のヒントを得ることができた。</p> <p>カ マスコミ情報発信件数は、目標値の達成はできなかったが、NHK等のテレビ番組への取材協力など、新聞やミニコミ誌による報道などと合わせて効果的な広報活動が行えた面があった。</p> <p>キ ホームページやSNSによる情報発信を昨年度に引き続き積極的に行ってきた。今年度は動画コンテンツとして秩父地域の自然遺産をPRするショートムービーを作成し館内映写、youtubeによる配信を行った。tweet数は目標値300件を超えた1,472件となった。HP閲覧回数約60万回、Twitter表示回数約323万回を得ることができた。</p>
課 題	<p>利用者数は昨年度と比較して増加したものの、目標値110,400人に対して77,741人となっており一定の利用者を得ることが困難な状況である。</p>
対 応 の 方 向	<p>令和2年度は感染防止のための臨時休館などコロナ禍における博物館運営を模索する中であったが、令和3年度は感染防止対策を徹底した上での運営が確立されたと考えられる。新型コロナウイルス感染拡大の状況は今なお予断を許さない状況であるが、Withコロナにおける運営を念頭におきつつ、多くの方に利用してもらえる博物館を見据えて運営を図る必要がある。</p>

評価結果に対するコメント

各館協議会委員会の意見	<ul style="list-style-type: none">・全体的にみると、このコロナ禍の中、とてもよく頑張っている。制限があり、相手の都合もあるところでは目標に達していないのはやむを得ない。・今後問題になってくる資料の増加(保管庫のキャパシティー)にどのような対処を考えるのか。数ではなく、何かの価値観を付与して目標値を決めないと保管場所がなくなってしまう。・新型コロナウイルス感染症の世界的流行が続いており、徐々に平常にもどりつつあるものの、入館者、開館期間については社会的な制約があり、3年前までと同等にはいかないが、逆に、こういう機会に博物館の活動の優先順位や、量とは異なる質の面で、新しい時代への対応(インターネットの利用や電子媒体を活用した資料展示、プレゼンテーションなども)についても改めて考える良い機会である。・厳しい新型コロナ感染症蔓延の状況下で、特別展・企画展の継続開催を含め、特に地域に密着した活動を着実に展開し、目標の70%以上の利用者数を達成したこと、利用者の95~99%に達する満足度を得られたことは、職員の不断の努力の結果であると高く評価する。・未だ平時の社会環境に復帰できていない今日、自然科学分野における学校教育との連携は特に重要かつ有効なものと考えられる。今後とも創意工夫されこの分野での貢献を期待する。・現在の状況で、常設展観覧者数が目標値の87%以上に達したのは評価できる。・常設展や特別展等での満足度が非常に高く、職員全体の努力の表れだと思う。また、観察会や講座での満足度はほとんど100%と非常に高く、大いに評価される。・特別展、企画展、観察会、講座、講師派遣などの開催がそれなりの数に上っている。また、学校との連携や関係機関との連携も積極的に行われており、比較的小さい博物館としてその努力は大いに評価したい。・資料の収集・整理や研究成果の発表も、目標値を大きく上回っており、この点も評価したい。・自然史資料を収集・整理・保存し、未来に受け渡すことはとても重要で、他の施設に代わることのできない活動であるが、これを目標以上に達成しているのは高く評価すべきことだと考える。・収蔵庫の拡張(増設)が課題である。多額の予算措置が必要となるが、埼玉県に直接関わる資料(サンプル)だけでなく、それと関係するものを幅広く収集・収蔵し、それらに基づいて研究を行うことが当館独自の活動を創造する上で重要である。・かつて秩父鉄道が運営していた自然博物館では、地質学や植物学(地衣類)の独創的な展示と解説があった。質的に高く量的に豊富な研究資料(サンプル)こそが博物館独自の研究・教育活動を支える。そして、その結果は必ず県民に対する教育サービスの向上につながる。
-------------	---